

# 教職大学院 NEWS

vol.32

2021. 3月発行

三重大学大学院教育学研究科  
教職実践高度化専攻



## 3期生へのお祝いのことば

教職実践高度化専攻・議長 須曾野 仁志

3期生のみなさん、修了おめでとうございます。

2年間、特にこの1年はコロナ感染予防のことがあり、教職大学院での学業は大変だったと思います。この4月から教員として新生活を送る人、本格的に教諭として学校現場復帰となる人、校種や教科、そして経験は様々ですが、教職大学院で学んだことを様々な場面で活用してほしいと考えています。学びは基本的に自分のためのものではありませんが、担当する子どもたちの学びを楽しく変える、そして笑顔を増やしていけるものだと思っています。教員自らが学びを続け、魅力的な授業づくりに努めて下さい。

みなさんとのご縁は修了して切れてしまうものではありません。「こんなおもしろい授業をやっているよ」「ICT使ってこんな学習しているよ」「学校でこんな特色ある取り組みしているよ」といつでも私たちに連絡下さい。教員や後輩がいつでも駆けつけます。Zoomでもよいのでいつでも皆さんの実践を紹介下さい。

これからの大いなる活躍を期待しています。

## 2年間でふりかえって

～3期生が教職大学院で学んだこと～



価値ある2年間でした。1年目は、授業に全集中で取り組み、思考の軸と観の目を鍛え「私の中にある問いは何なのか」を明確にしました。そして、2年目は、学んだ知を現場に実践を通して返すことを試み、クルト・レヴィン(1951)の言う「よい理論ほど実践的なものはない」を実証しました。教職大学院での学びをこれからの糧として邁進していきます。  
[学校経営力開発コース・大井 賢]

「地域とともにある学校」について、考え学んだ2年間でした。先生方にコミュニティ・スクールについてご教授いただいたり、県内外に出かけてインタビュー調査を実施したりなど、多くの方々のお支えの中で「連携・協働」のあり方を考えてきました。今後は現場において、仲間と共に「より良い学校」、そして「より良い地域」を創るために努めて参ります。先生方、3期生のみなさん、4期生のみなさん、ありがとうございました。  
[学校経営力開発コース・尾上 佳代子]

大学院で学ぶ中で、しくじり続けてきた教員生活を見つめ直す機会を得ることができました。本当に良かったです。私の学修テーマは、まさしく「振り返り」です。児童の振り返り活動をもとに児童理解に努め、授業改善に生かすことを心がけました。回数を重ねていくと児童の成長した姿を実感し、何とも言いえない喜びを感じることができました。「先生、今日も実験しよう！」と明るいう声で伝えてくれた、あの児童の目の輝きを忘れずに、今後も実践を重ねて参ります。  
[学校経営力開発コース・加藤 大輔]

教職大学院で過ごした2年間は、教員生活を振り返る機会となりました。津市や東紀州での実習では、学校の特色や子どもたちの様子が地域によって異なることを知り、貴重な経験となりました。また、大学院の授業では、新たな知識や理論を得ました。現職の先生方や学部新卒の院生と、授業や研究の話をする中で、新たな学びが生まれました。これからも、「対話」を大切に、学びを深めていきたいと思っています。  
[学校経営力開発コース・川上 文香]



スクールマネジメントで学んだ「群盲象を評す」の絵が、私の2年間の学びを象徴しています。それぞれが自分の正当性を主張しているだけでは、いつまでたっても真実はわかりません。この絵をヒントにこれまでの教職経験を振り返り、深く省察しました。これまでとは違う見方が得られた気がしています。この見方や考え方をこれからの人生にも生かしていきたいと思います。ご指導いただいた先生方、共に学んだみなさん、本当にありがとうございました。  
[学校経営力開発コース・川上 美由紀]

入学した当初は、大学院で学びたいことが沢山ありそれを取捨選択することがとても大変でした。2年間で興味ある分野の勉強をしたり、本を沢山読んだり、授業でプレゼンをしたり、先生方からの指導を受けたりする中で有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後は、自分が学んだことを現場に還元していきたいと思います。  
[学校経営力開発コース・濱口 美佐]

たくさん読み、書き、考え、出かけ、出会い、対話した2年間でした。学校という組織が社会の中でどんな位置を占めるのか、私自身が教育活動に携わり続けることの意味、人間が「学ぶ」ということそのものについて……。ひたすら走ってきた教員生活をじっくり見直す時間をいただきました。そして今、再び顔を上げ、子どもたちに向かい合おうとしています。教師であることを、より幸せに感じられるようになりました。  
[学校経営力開発コース・藤川 純子]

入学説明会で年齢制限がないということを知り、32年間の教員生活の後に入学しました。2年間の学びを通して以前の教員生活を振り返ると、それはまさにコンパスのない航海のようでした。しかしそれまでの長い航海があったからこそコンパスの有難みを知りました。そして教育の過去と現在と未来における自身の立ち位置と進むべき方向が見つかりました。2030年のwell-beingに向けてまた新たに出航します。  
[学校経営力開発コース・山本 裕史]

大学院で学ぶ機会をいただき、初めて「現場」から離れ、現場で働いてきた自分を客観的に観ることができました。これまで本をまともに読んだことがなかった自分でしたが、たくさんの実践や理論を学び、自分に足りなかったものや、自分が大切にしてきたことに気付くことができました。これから長く続く教員人生に、この2年間はきっと貴重な財産になると信じています。これからも学び続ける人間でありたいと思います。ありがとうございました。  
[学校経営力開発コース・吉岡 竜吾]

この2年間はこれからの教職生活を支える骨子となるものでした。長期実習や現職教員を交えた講義から、これから担うであろう仕事についての具体的なイメージを今では持つことが出来ています。大学からそのまま大学院に上がった私(教職にまだ携わっていない私)が現在の教育課題に対して実感を伴う形で感じられた2年間はかけがえのないものです。  
[教育実践力開発コース・西田 郁也]

現場への準備であり、教員としての姿勢を構築した2年間でした。学部実習では授業をこなすのに必死で、「なぜその授業をするのか」まで考えが至っていませんでした。しかし、この2年間で「理論と実践の往還」をめざして講義を受けたり実践を行ったりしていく中で、将来子どもが自身の進路に応じて「使える」ようにという授業の基盤ができました。今後は「なぜするのか」考えつつ授業を通しての教育効果を高めていけるよう修養に努めていきます。  
[教育実践力開発コース・西田 有貴]

この2年間、専門分野の多様な先生方や各々の強み・目的意識を持つ他の院生の方々に囲まれ、常に刺激を受けつつ研究を進めることができました。また、そこで得た視点を附属学校園・東紀州・連携校での長期実習に活かすことで、自分なりに「理論と実践の往還」を図ることができました。そんな教職大学院での学修は、教科知識だけでなく教育そのものについても研鑽を積もうと考えた自分にとって、「教育の最前線への留学」とも言える大切な経験です。  
[教育実践力開発コース・前葉 愛理]